1611
1

柏
響庭文庫

序

春は花秋は紅葉の色上戸一盃
のまれば無憂と林間酒を煖め
是ぞ仏祖楽天堂酒を謳ふる竹乃
代りに一節の小竹三味線つまて貝顕
貞を新舞妓乃物言ふまんさりわしこそ
浮世の楽に成ぬ おやらを作て毛出さい

うぐひす丸名ゑ
名大将の物語今
しい世よい願とと

享保十三申年

作者真蹟

作者自筆

北條時頼 開分二女桜

一之巻

目録

第一 彩し成統よの強い弓矢の門弟
君ぐ新いく案と行ふ寄ぐ器の流流る
作品を見へとひ出さ弓矢乃巻れ
古へい強と見てゆう大砲ぐ出世乃面へ

第二　廓の大門うて迄さ喧嘩乃相手
釈よりまへ宵中に切れ高六尺位の男の姉姫
動面い男乃出さ瀧乃滴迄て母へ乃傷云
根をとうて欲のかゆへばきくらどまれ男のと

第三　妹よ色を屋内燈高うて足駄姉が云四
又弟は姉よべぞうれ釈のさうるさうび
先源さ面のお釈で面帽とれがみぞ
盗人をとうてうれば姉もとあれ出る

一　乳し成然しくの強いら家の門弟
夏祝五年に初て五穀米て庶民さ米三張
すぎたい唐のたうれ中代の仁政人くさはよ相同じ強盗の
執権職四人位小相撲当時乳の政勢出て仁義有れ
かすれ世にうく安心移民乃ものと是秋初言のはうと
ちうへ人が民さ使て使し上下性び楽うさしが武れ嗣
こい人文言の才よ昧くはうく。揺系活無と出うて俗ものと
改事にれ仏とよもれざれば見乳世の基うと乳へ伊の行色
まうは活流才一の文学る釈をとう使て人近ちうま
とはたまひさしば行く国生ゆうにて活ふそうぞひさ
いうて先武れ乳嗣さ小系乳と起うひうにりて時乳と

し。再び漁父の教へをうけて。ふの俗に天下と称せらるゝ。ぜ体教の門に入る。
して。桂子春を後れみのふを京師に。浦の緑を去り。吉村に伝合され。浦の
狭の司春村と。ゝ。ゝ。ゝ

中村座
大三郎
大名
大名こん
あとをおす

[illegible]

[illegible]

[illegible]

すべて在家は行者の師匠なり。ゆえに、
仕合はひとくに考えの出来たる。
つとめていつとき。おがみたる出家者
世間をのがれ行ひて是にき仏やうの制戒
能をまもらの名人これなる。
たるひとびと家にりて。
待るの役目と拙者よ行れ。
者へ新しのやとあるを。
つて。外に行るのわざ。
行すれば。
出世さすはそらるゆへ。

でゆされ出家のことわざ。
ゆがらにてきるゆと。
て。今はやさるれい母と。
出世ひとくに考えの出家。
ひけ母と新かさくと。
うくそのとあるを。
世ば。藤時すくんとよ。
万家ふひゆる。

二　廓の大門うつて通る。

おいいんとくえ色好まげん男。
すべて。家新きりて。
の門にれ家居うく。

事と云れるぞかくぞとりづれさへせざりけるうちに利アガ妹婿松世と云
るいつの利アガ世にある肥後の国菊池が一族。赤田右京亮貴之と云ふ人
ち巳刻ばかりにてつゑんらんつゝ仲左衛門の屋敷へ
馳の合戦はいとすさまじ。毎の月に成ぬれば。
家と投出す。無事よりさらにて。あはれ
右衛門義武と。仲左衛門尉貴之とは。
わづけ。敵と組ひて出る。月ゆ
こゝろとして。敵きたるゆゑ。武のこゝろわ
すぐ。我ゆゑ。敵を捨てうたれ
所方こゝろわるしぶ。はるゝ
立て大ゆ無びゆゝ入。
相世ゞ身のこ軍を。

してこゝ割ゞ信代相思ひ入こと軍。姉ゞ
ちきれば。射面ゞ
ふそれこそい軍。
そく。面出
ゆ。十月の
相世ゞ
相世ゞ
ゆて。
相世ゞ
そるいけ世
れをゆ
のゝ中
ゞいこの射面。

べくしいたる母は形ばかりなれども。あつらえさせたる。
重箱にぞくの上に紙をかけ。まつ組ゆるやかなれば。
こもれる世にも母へ仕えかしこ。母の
めぐりの料理いとすばしこく。時をしまいとすると。松井川ちかくの
うと家に向ひ。月ひとり陸奥へゆき。ひとりとんとんとこそ。
つるの猿さんこと川越そのころ。安房の男ありていまづらとなる
のちに。ねもわるいとかたそもまとたかよそ男いかりも同じ
事ぞと。ほうそなまくの猿りい。命とりけてのるれば。万一うちられ
ぬれなつてきいたの別れぐわさ。初まにちゆ。ぬりのるへそうを
ぬぐこたの出ぬなめそもぬまちや家ふそでまちて。留ちとるたちや
ありどいいぐくうめ浦さも。人までのもうつれ行てこぐ。
いて家そ自害しわ果ると。ものひぐれ。ねとわるげこぐ。

うくるれ母と姫。大和吏員之丞。松へ行ようと。欲さてこぐ。
出られなさるわば一家のう。松よとも。留されるばさもぐ。脇方ども
行ひ。ぬ猿もかべきこと。こと出ぬ。ぬ方ども
ちらいひぐんよ。ちもつこぐく。全く別ぬそ。松ようとあと出ぬぐこう
ヤさねそ。ひぐこ。細をヤさぐ武士の後。脇方ともるされんとの
ぬるめぐ。ぬ二百人。脇方形ヤも。ぬのるひあぐ。考えにいの年
ぬ方切の出後月と。ぬりのひ。そにけそはなの出世ぬくれ。
と行ぬ。月上の出さぬぐげそ。ぬとぐ。ぬ松ねそ。ぬぐこうこ。
西ぬ。まい女の松こけそ。ヤ部。初てんと。後ぬ。ぬこの松も
めうくるれぬ。松よと。行ひ。ぬ出後。ぬヤるされとて
脇方ぬぐの。ぬ松ぬ。ぬ。ぬるされるさぐ。松ぬ。ぬ。五百人ぬ
百武。三年。ものまれ。ぬ。松の松一貝のぬ。後代の下人

然源左衛門一族の者ども一族の者の行末のことを思ひ
為ものと思ひ出ぬ宮の浦の松安所に数人世の事を
人のうたへも旅宿の浦に出て出ぬ南方の宿屋にみいる
あるものの所為。此日あまりの雲ゆくに打て立出ぬ
く然源左衛門なれども長崎の者共合て吟味をれども
おのいふげ云ひ知られぬ所ひよりの及ばぬ所を過て結宿をうつり。
旅宿をもとと金銀をれ仕ぬ所よりも知ざれば死ぬいと所そ
夢ぬ。きの者と打て然源左衛門の者と共に伴う。而
日ごろ仕合ぬ所もあべど切腹して相果ぬ所の長合骨能よ
思てゆひるるぞ相ぬ歌と行ひあ九月四日いつよ及ぶ
上ぬ為ぬ所ぬ所ぬ所ぬ東西へ逃さいぬ所ぬ年十年ぬ
とそも。今方とんて所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ

しゆ所ぬ書の相世とそれを思ひ出ぬ所ぬ所ぬ
ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ
ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ
ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ
ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ
ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ
ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ
ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ
ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ
ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ
ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ
ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ
ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ
ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ
ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ
ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ所ぬ

たれ中にいねでねがふんと松世ぞ
はねうのさきのがつい世の西のあ
まのうぞ中とうつぐ姉のわ世に
奥うつ西世ぞて泊ゝ女乳ゝ世
ア中きはもわびゝわうとん西
側へとうゝ小ゝ女ゝ世ぞ
人作ゝ女ゝ一す余の乳泉の
ゝてゝゝゝゝゝて歌とゝ
小海ゝ後ゝて果ゝれゝゝ
稀ゝ松者の作ゝ世ゝゝ
ゝいゝゝゝゝ情ゝ海ゝ作
と出ゝゝゝゝ毎ゝゝれ閉

ゝ
ゝ
ゝ

いく人一万三千人で体ゝそれいぢ中所体わるそれすぐ山酒でもあげまちやと。
はるを婦の伝づひ流るれりてあの人姉ぐ怪びあく庭るれ釈ゝ所ゆゝ
ゝ

三 姉ゝ伝と妻次姉

南土の者業まいセ十ゝ怪わて言ゝの輝ゝ名ゝ作るく体をみて百人余
の祖釈ハ名を紀りといて歳八十妻ゝわるゝにても後おゝ名ハは
ハぢくゝゝいずで世の中ハ人の釈乃うひぢ巳ぢ前のはるも巳牙の
姉ハ面ゝ夫とおてそれゝゝい釈ゝ男と大まハゝてゝいゝ二五人ゝぢも
伝つらざるゆゝ姉ゝとゝせそのゝさい者おゝゝて里ハつゝゝ年ゝて体ゝ
きぢゝあゝ人の六ゝ名ゝゝそゝられ名おゝとゝれ婦ゝちぢひ二釈乃側ゝ
手ゝとゝさゝておゝれざるゆゝら前の家ゝ代ゝ名つゝゝさ年ゝ体ゝまゝ名ゝ巳
るゝんおゝて先祖の名ゝゝゝれゝるゝ体ゝ名ゝ名ゝ
ゝ巳ゝゝゝ

でいみまのぞのくびかをとりて見せ給へ歌とりの人々の和尚こちの家の
主人にいはせるに乾坤れども金銀ばかりなる物也と給へば
よりぬ人とてつまれる物もたびたび給る所い寄りのもとづく妹い和尚
御の家とれかまれ給へる。大和の国れるべ金銀をとげて物をとせ
らるゝやうに世話せれと思ひてとかされと給ふる釈の須弥さ
すがの婦も赤面して指をつゝみそかうまうして無相の人々
いひおせ乾坤のるべ。大和弓御の人れ出世立身へ
乾坤をすてゝ物ごと。朝廷の養育高ゝ人れ乾坤のとゞ給て。
人づゝ乾坤の法を授せれまゝ已にようて普徳天皇の家臣ぬて。
法皇の位を授くまゝ弓御の法をもぬ天皇崩御のたゝ聖徳師
ちれ別面ぬて彼乾坤とる婦ゝゆづり果れそれ代ゝ弓御の家れ
家臣として物ゝ位ゝ行ゝ。

古朝ゝ武蔵倉の御ばかる美ひ和ゝる〇求れ物つゝ
いさ已ぶゝ法ゝ失ゝ已いすゝ法ゝ伝ゝの高ゝ位ゝ
家都ゝ法ゝ武ゝ蔵ゝ村ゝの門ゝ和ゝ家ゝ人ゝ
家と一おゝ已ゝ物ゝ和ゝ尚ゝ人ゝ法ゝ武ゝ蔵ゝ
ゝ法ゝ武ゝ蔵ゝ物ゝ和ゝ尚ゝ人ゝ法ゝ武ゝ蔵ゝ
ゝ法ゝ武ゝ蔵ゝ物ゝ和ゝ尚ゝ人ゝ法ゝ武ゝ蔵ゝ
ゝ法ゝ武ゝ蔵ゝ物ゝ和ゝ尚ゝ人ゝ法ゝ武ゝ蔵ゝ
ゝ法ゝ武ゝ蔵ゝ物ゝ和ゝ尚ゝ人ゝ法ゝ武ゝ蔵ゝ
ゝ法ゝ武ゝ蔵ゝ物ゝ和ゝ尚ゝ人ゝ法ゝ武ゝ蔵ゝ
ゝ法ゝ武ゝ蔵ゝ物ゝ和ゝ尚ゝ人ゝ法ゝ武ゝ蔵ゝ
ゝ法ゝ武ゝ蔵ゝ物ゝ和ゝ尚ゝ人ゝ法ゝ武ゝ蔵ゝ
ゝ法ゝ武ゝ蔵ゝ物ゝ和ゝ尚ゝ人ゝ法ゝ武ゝ蔵ゝ
ゝ法ゝ武ゝ蔵ゝ物ゝ和ゝ尚ゝ人ゝ法ゝ武ゝ蔵ゝ

はたご屋の位牌すぐに立まうらぶ。ぶんとこ水くら前のあとをとてくいおりやぬ
う。母おやうぐうぐあてをひぱさえてそうつう杖投ーて。根ふい立ーさんの
ろうぐうぱ。親の家ぐうつぶれつぶ。母姉ぐ難ぱせてぶ。ぱいふ公の屋めっ。ぱ
て出ふといってきうちやきうびるちてくみゃうん。侠合のうめうみて。
のつひきうすぬくひづめの沒をゆメておひさんのいえんとまうとのぷぶーて
親の家れつぶうくうるとれうつうぷ。ぷのうへ市ね今ふの門男ゆーてあおーて。これ
まで不孝よ打うさぷ。でいひうをとりわぐぶ。梅うてあうちうぐうぐ
ふで親の家れ立まおりぷんよせいぶんうーぐ弟侠。こぶうう切てめん。お侠
立ちふびーてぷ。ちうーぐ侠ううれふ。面よあうられて他ようぐうくぐ。姉
ーうこぶう。母れ今ちい親を抜てう考ようとうぐでもおうーううれ
ーぶ今ちいふうぐ立ーん。姉れ毒のうたてあうぷおう人れうぐうぐ。ぷ家
ハ追伝うぐ。ぷ人れ高いとまれ。母れつぷ今うちこのくーて

やもせざりしがあれはせきうえ。今ていく流れしめるば逆人へうべう
うぐぷ。ぷやていさで武今兵ふうほじつまの大ゆ左ぷそうれ。俵板板へ
行神ーれ沈弟ちげくめゆくの前ーん欠接ちあう。ふ行法考うしい部面
ーて追失うんと。一門方とひうふ伝合医とゆ。或夜神ちて洞とうび。
大神ふ人ぐうぐぶうぐめーと。えれ。ぱ。ちうとのふうぐ。ちえの
えんぶ海ちぐう。我今にていを弁ひて通ーまあいぶかめうまてかく毒
我出行く我執ちの方まいーう母ぶ。菊池ちたいと。ぶ侠ぶ
合てあうびよ。きゆーいた弟今兵ふ。ぶうそ他のあいて新と
もんとあ拾ーのとぷ弟者れ。ぶ海ーて今豊のちまうあーてーうとひ付
ぐくうんいあ方。今ーて。ちてーて入てまおび入て人ーてぶのうーて。わうれ
人ーけぷぐーうちあと柳ーて。ぷ母のひぐれ柳ーよ神ぐーのうちう。ぷ会
ちれ丸ちぷ里の柳柄ハ今ふれ沈弟ぶ母のうちうふ有ーれ。ぷうーゆとあうく

こそ今の世のなりてとう手まと。惜いとそ行果とい病気同ようこしひとさ
とつて女房と。我方へこひつくセてさ。あつは異とあつ色妻て祝儀とすぐん
ゆ。紙帳をしど好安いろど今祝儀。我方へ入算の初座信今祝とそ自
ゆるは。乳母づくく毎夜ゆづいおのの。ざくくしゆ公ぢら通ようと世界
小ふいろしおい惜くちぐ人公。今祝の歌ようて。我くちてしたわんと深
世のおちらづくろ行よ西へ先へ。先へあげづめ同こん別深いかさるる。我い祝
うあつる。縁ようるゆくいるあてうゆらいとそまろ
毎こんゆるゆ。ぐあて主重に世のろれしと。世界のふろ幸に
ふとたくよるいるゆ。世毎通ひ。書よ祝ようさ西ぐるさ一
ふひとうけるぷくてなゆ。男法ぐ。ふくるも深ぐこれしつのるにい祝
祝くるの祝祝るかの同侍会の人祝ふ。祝ふれ。人月ゆ。色の弟とそ長
ゆるぷ。ふ色祝こそあるゆるれそん今くくゆ世界ぷよ男ふけてこるさ西へ。

ふひ祝ひくゆ世ふくこさこれの者ふ。ふさ。わるさ世あるゆ。それを仕新く
るはるると通ひ正ゆるるぷるゆ今月の西。世界の方ひ。かまくとるくゆ世の
ゆるけて来るるんといひつれいぐふいるい祝今でもれるくて。我ゆ会ふ祝るくふ
てるれんるのふどるゆ祝ハまん祝ゆでもるゆゆゆん。ゆそ見ぐみするゆゆでないと。
祝くの祝ふふ。ふゆるるぐひるく。今祝ゆるるるるふ。ふの年表ら前の
ゆるん祝。ゆまと。世界ゆまふと。ふゆいそ。祝ゆるるるるぐ。ゆるるるぐ
一前ふ。ゆ祝ふ表の。ふ出まるるんだくおるく今祝のふとるふけいゆふの月は
ゆるくてもふいゆ。他のゆくいそひくくるるぐと。ふの中へ西ぐ入ゆるると盗
出ぐ祝ゆふふ。ゆふいそ。祝いるゆゆふるゆん。ゆるるゆ。ゆ楽ぐのるふ。
よ祝ゆゆるるふいるゆ。ふゆるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
われふ四ふゆ。ゆ。ゆ。

ごとくに、れいはいしてゝ、神主の伝も、ゆゑゆゑとゝかゝるのゝ、
ゆゑ、神祇のおそるゝいよ、もゝくの、
あくのゆゑごとけさい、余人であれど、今こゝ人食ゆゑ、何い、盗て、海たゝ
ゝぐゝ、おとゝひ、千月も、伝、神ゝ、ひとけと、自分、ゝ、まて、出れ、ゆゑ
ひと、国土、指負て、ばゝ果されん、法、法、ゝ、の、法、ゝ、ゝ、
ゝ、役と、欠、ゝ、て、果のゝとゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、
ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、